

令和2年度（2020年度） 第1回熊本博物館協議会議事録

2020年7月29日（水）14：00～15：50

於：熊本博物館講堂

出席者

【委員】阿部委員（会長）、岩崎委員（副会長）、紫垣委員、島津委員、
富田委員、小佐井委員、日高委員、宮本委員、宮尾委員、金丸委員、
福本委員、梶尾委員

【市】遠藤教育長、田端館長ほか博物館職員

※教育長は挨拶後、退席

〈次 第〉

○開会

○新任委員紹介

○主催者挨拶

○議事

（1）令和元年度事業報告について

（2）令和2年度事業計画変更事項について

○閉会

《議事》

【議事1 平成30年度 第2回博物館協議会意見に対する対応について】

会 長：それでは、会の進行を務めさせていただきます。委員の皆様より建設的なご意見をいただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。会議次第にしたがいまして、令和元年度事業報告について、説明をお願いします。

館 長：協議会資料をもとに、令和元年度事業報告について説明いたします。

[令和元年度事業報告について説明]

会 長：ご意見・ご質問等おありでしたら出していただきたいと思います。それではお願いいたします。

委 員：お礼とお願いです。博物館と美術館は昨年度からいろいろなかたち

で連携をさせていただいております。共通マップの作成やテーマを共有する展示会ではお世話になりました。熊本城周辺施設として今後も連携事業をぜひお願いします。

館長：ありがとうございます。私どもも県市の枠組みを超えた県立美術館と熊本博物館の連携は、相互に相乗効果があり、熊本城周辺の賑わいづくりにとりましても非常に重要だと感じています。今後も、美術館との連携を継続して参りたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

委員：ホームページのコンテンツについてお尋ねします。例が7つほど挙げられていますが、これは職員だけで作られたのでしょうか。また、時間はどれくらい掛けられたのでしょうか。更新頻度なども教えていただけますでしょうか。

事務局：自粛期間中に自宅などで観察や科学工作を楽しめる場を提供できないかと思い、北海道博物館の呼びかけに応じて「おうちミュージアム」のロゴの元に、コンテンツを紹介しています。子ども科学教室の担当者は、手持ちの科学工作のネタを発信しています。最初にアップロードしたのは3月2日、最新は7月25日です（7月29時点で）。ネタができ次第更新をしているような状況です。科学工作は20個ほど発信しており、このほか動物・植物・民俗・地質など、各学芸員が有しているネタをコンパクトにまとめてコンテンツとして発信しています。かかる時間はそれぞれの学芸員によっても異なりますが、最初から作ろうと思うと時間がかかるものもあります。他館と連携したコンテンツもあり、一概には言えませんが、すぐ発信できたものから何週間もかかったものもございます。また、おうちミュージアム動画については、民間のケーブルテレビの協力を得て、コンテンツの中身を映像化し、ケーブルテレビでの放送後に博物館のYouTubeチャンネルで配信をしています。

委員：HPコンテンツ、楽しく拝見させていただきました。一般の方々だけでなく、普段博物館に来られない方、障がいをお持ちの方にとっても、有効な情報発信方法だと思っています。今後も続けていただきければ幸いです。もう一点、特別展・企画展・各種講座について、自然科学系は小中学生の参加者が多いようですが、人文系は若

い方や子どもの参加が少ないなという印象があります。人文系についても、若い人にふしぎの種「ふしぎだね」を蒔けるように何か取り組みをされているでしょうか。

事務局 : 社会科・理科に関する 50 題材を取り扱った館内学習プログラム集を使って、熊本博物館から遠隔地にある 12 校の小学校 3・4 年生を対象に行っているスクールシャトルバス事業では、社会科のプログラムも提供しています。多いのは授業とのつながりが深い民俗分野で、座学や展示室でのレクチャーなどを行っています。そこで興味を持った子どもたちが、また休日に家族と来てくれればと考えています。人文系のイベントについては、実際に行っているものもありますし、これから広げられればと考えています。

委員 : 天文関係について、プラネタリウムは活発な取り組みをしていただいております。来館者の半分はプラネタリウムを見ているようで素晴らしいと思います。一方で、プラネタリウムというのは、こちらの施設を使って体験するものですが、学校現場に出ていく「お出かけ事業」については、天文はなかなか難しい面もあると思います。企画や計画があればお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

事務局 : 天文分野の「お出かけ事業」については、太陽の観察やエアドームを用いたモバイルプラネタリウムの投映などのプログラムを用意していますが、学校側が博物館のプラネタリウムを用いての学習投映を希望されているというような状況です。リニューアル前の休館期間中は、モバイルプラネタリウムの投映を中心に「お出かけ事業」の依頼もございました。

委員 : 多くの催しを行っているようですが、企画はどのようなプロセスをもって決定をしているのでしょうか。今後、博物館の利用者を爆発的に増やしたいのか、特色ある企画を中心に元々興味のある方に絞ってじわじわと利用者を増やしていきたいと考えているのかが気になりました。流行りものの企画はされないのかなど。全体的に広報活動が不足していると感じています。SNS や YouTube をよく利用していますが、博物館のアカウントがあることを知らなかったのが大変もったいなく思いました。ネット配信のコンテンツは良いと思いましたが、HP のアクセス数の伸びなどはいかがでしょうか。

館 長：催しについては月 2 回の館内会議などで決めています。スケジュールとしましては、秋口には翌年度の予算を計上しなければなりませんので、詳細については、事務方と学芸員と一緒に企画を詰めていくという流れになります。特に特別展や企画展など比較的大きなイベントについては、数年先まで見越して計画を立てています。広報不足については、ご指摘のとおりだと受け止めております。固定客だけでなく新規のお客様にも来てもらいたいのかということにつきましては、私たちが新型コロナウイルス対策で休館している中で再認識したことがあります。来館できない方（障がいのある方など）にも何かできないか、ということでインターネットでの配信を始めています。私共としましては、これまで博物館に興味を示されなかったお客様にも、もちろん来ていただきたいと思っています。特に SNS や YouTube を多用する世代に向けて、広報面の工夫が必要かと考えています。現在、本館のツイッターのフォロワーは 818 人、塚原歴史民俗資料館のツイッターのフォロワーは 163 人、ユーチューブのチャンネル登録は 260 人となっています。流行りの企画を行わないのかというお尋ねについてですが、博物館では入場料とは別に観覧料をいただく特別展というものを開催しておりまして、これは民間事業者と私どもがタッグを組んで、民間のノウハウを活用しながら実行委員会形式で開催するものです。そういったお客様のニーズを捉えた催しも今後も続けていきたいと考えています。いずれにしましても、まだまだ博物館の広報が不足しているということを反省しながら取り組んでいかなければならないと思っています。

会 長：Twitter や YouTube はいつから始めているのですか。

館 長：Twitter は 4 月から、YouTube は 5 月からです。

会 長：理工系は体験型のものが多く子どもに人気とのことですが、やはり人文系は専門的な言葉で言うとハイコンテクストな、深掘りをする、考えさせるものが多く、少し対象が違ってくると考えます。企画をする際には考えていく必要があることなのではないでしょうか。

事務局：昨年から、5 月の GW と来年 2 月の「くまはく誕生月間」については、全学芸員と研究員でイベントを実施しています。今年の 2 月

は、人文系も大人向けのものや子ども向けのイベントを用意していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、途中からイベントが中止となり、5月も全てのイベントを中止しました。来年の2月にも同様のイベントを計画していますので、子どもたちや来館者の方が楽しめるものにしていきたいと思っております。

館 長：人文系に関しては、私たちが企画を組むときに博物館として勉強してほしいと思うこととお客様のニーズに少しズレがあるのかなと思うこともあります。ニーズを把握するための調査も必要だと思っています。

会 長：遠隔授業について、配信をする際に著作権の問題があります。既にされているとは思いますが、どんどん状況が変わっていきますので引き続き整理、確認をお願いします。

【議事2 令和2年度事業計画変更事項について】

事務局：現在の新型コロナウイルス対策についてご説明いたします。資料4をご覧ください。

[新型コロナウイルス対策について説明]

館 長：ここからは令和2年度事業計画についてご説明いたします。ただいま館長補佐からも説明がありましたとおり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、当初の計画から中止や延期、また、縮小した事業がございます。今後もやむを得ず中止や変更となる場合がございますのであらかじめご了承ください。

[令和2年度事業計画について説明]

会 長：ありがとうございました。ご質問、ご意見をお願いします。

事務局：本日、ご欠席の木川委員から、メールでご意見をいただきましたのでご紹介させていただきます。

[令和元年度 事業について]

近隣の県立美術館との連携事業は、良い試みかと思いました。今後も何か企画されることを楽しみにしております。「自然のおいしい味わい方」の展示会は、新聞記事を見て来館された方も多かったとのこ

とで、博物館のあるべき姿のように思いました。これだけ多くの事業を精力的に実施されており、スタッフの方々の頑張りは素晴らしいと思います。外部にも、もっとその成果を知っていただけると良いと思います。

[令和2年度事業について]

どこでもそうですが、新型コロナウイルス感染症の影響は非常に甚大です。特に、触れたり、グループで取り組んだりという、体験型のプログラムが本当に難しい状況かと思えます。今後は、with コロナの企画として、自宅にいる方やなかなか出かけられない方々へ向けての企画も増やしていただければと感じました。

館長：木川委員から貴重なご意見をいただきました。with コロナという話もありますが、今後は、休館中の職員の気付きを生かして、障がいをお持ちの方や高齢者の方など、外出の機会の少ないお客様に向けた情報発信にも積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

委員：限られたマンパワーの中で様々な企画をされていることに、まず敬意を表したいと思えます。その中で博物館と美術館の共通の悩みではないかなと思うのですが、KPI（重要業績評価指標）はどのようになっているのでしょうか。目標値を設定されていると思うのですが、近年は人も減る、予算も減る、類似施設は民間も含めて増えてくる中で、市民・県民の選択肢が増えることは良いことなのですが、行政としては常に右肩上がりの数字を要求されます。そのような中で、特に今年は新型コロナウイルス感染症や豪雨災害などによって、事業をしたくてもできない、お客様は来たくても来られないということが、これから当面、続くのではないかと正直感じています。そういった中で博物館のKPIはどのようになっているのかというのが一つ目の質問です。二つ目は新型コロナウイルス感染症とも絡むのですが、計画していた事業が出来なくなった場合、その事業はあきらめるのか、それとも工夫してほかの事業に振り替えるのか、どのような方向性を持っておられるのか、以上の二点をお尋ねします。

事務局：熊本博物館の年間入館者数の目標は、リニューアルオープン時に17万人と設定しております。1年目は12月オープンのため、年度単位

の統計はなく、令和元年度の入館者数につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、年度末に臨時休館した約1か月間を差し引いて、約8万7千人となっております。今後の目標値については、今の状況を踏まえ、あらためて設定しなければならないと考えています。また、近隣の文化施設と連携・協力をして、相乗効果を図った取り組みも必要だと感じています。

館長：入館者数に関しましては、当初の目標値を大きく下回ったということで、その要因につきましては、いろいろと切り口がありますが、反省すべき点は多々あるのではないかと考えています。また、設定した目標数値についても、その妥当性について、併せて検討しなければならないと感じています。

事務局：もう一つ、ご質問がありました事業を中止した場合の代替事業についてお答えいたします。特にスクールシャトルバスについては、昨年の予算計上の段階で12校分の予算を要求・確保しましたが、昨年は2時間半ほど博物館に滞在し、給食の時間までに学校に戻るといった計画を立てておりました。アンケートの結果、プラネタリウムや館内学習、展示物の見学は大変有意義だったという回答が多かったのですが、滞在時間が短いとのご意見もありました。そのため、本年度は4時間滞在で予算取りをいたしました。2月からは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対象の学校には、年度初めの4月の段階で中止も含めてご検討くださいと打診としたところ、授業時数の関係等で見送る学校もありましたが、参加したいという学校も多くなりました。なるべく実施できるような方向で進めていこうとしているところで、夏季休業中に改めて参加希望校と打ち合わせを行う予定です。代替については現時点では考えておりません。

事務局：付け加えをさせていただきます。スクールバスの事業とは別件ですが、今年の6月にスクールキッズバスを作成・配布しましたが、非常に評判が良く、中学生同士で遊びに来ている姿も見受けられ、家族での来館も増えているようです。子どもたちやご家族連れの出館に非常に効果があると考えています。

会長：委員の質問にありました予算を動かすというのはできるのでしょうか。

館 長：4月に（臨時休館中）、事業の精査をして欲しいと財政当局から依頼があり、明らかに実施が困難と思われる事業につきましては減額措置を行いました。中止した事業につきましては、減額となるため、来年度以降に先送りをして実施する予定です。また、事業規模の縮小などにより、余剰の発生した予算については、他の事業への振替など、可能な範囲で有効に活用していきたいと考えています。

委 員：熊本博物館も入館者目標を達成されていないとのことですが、県立美術館も全く同じ悩みで厳しい状況です。全国の博物館の会議でも、いつもこのことが議論に上がります。行政としては税金を投入しているので、当然、入館者数を増やすことが求められます。でも現場は、良いものをやろうとするのか、それとも集客性の高いものをやるのか、いつも葛藤があるんです。

館 長：入館者数を増やす工夫といたしましては、先ほど説明のあったスクールキッズパスは上手くいっていると思います。それから、インターネットを活用した情報発信はもとより、お客様のニーズに合わせた集客力の高い催しについても新型コロナウイルス感染症が収束した後は、しっかりと計画していきたいと考えています。

委 員：全国的に博物館の運営等が厳しい状況において、どのような評価をもって自分たちの努力を示していくのかが課題となっています。わかりやすいのは数的な入館者数ですが、これからどんどん減っていくことが予想されます。入館パスの作成など、質的な評価は文章で書いてもなかなか伝わりにくく、外部から評価されにくいと思います。KPIという観点から言うと、質的な評価を何らかの形でそれを量的に表していく工夫が必要なので、満足度などを数値的に昨年と比べてどうであったかを示せるとよいのではないかと思います。天文台の運営も全国的に非常に厳しい状況で、自治体側からするとお荷物になっているとも感じています。いかに切り返していけるのかが問われています。イベントとか集客とか話題性で訴えるのかどうかということもありますが、元々、生涯学習施設ですから、学びが根底にあり、遊びによった部分で裾野をどのように広げていくのかについては館として方針があると思います。いたずらに入館者数を増やしても、中身が薄まってしまっただけではどうしようもないというのが現場のスタッフの思いだ

と考えます。それをどうやったら評価してもらえるのか、やり方がなかなかわからないし、もどかしい思いをしているのではないのでしょうか。質的な評価を量的な評価として示していけるかが重要なポイントだと思います。

館長：冒頭、11月に昨年度事業の評価報告をさせていただきたいとしておりましたが、評価の質的な部分が見える化する、量的に表していくもの（指標）を持っておりませんでしたので、非常にありがたいご意見です。今年度・来年度の事業に対して、お客様の感想など、量的な部分だけでなく質的な部分も評価が見えるような工夫をしていきたいと思います。当館は教育委員会に属していますので、まずは教育というのがベースになると思います。ただ、教育だけだとどうしても固定のお客様が多くなり、レジャーとしての利用を考えている人の誘客が難しい部分もあります。やはりメリハリが大事であると考えておまして、学芸員の各分野の研究を発表する企画展、民間のノウハウを使いながらある意味、娯楽性の高い特別展など、バランスよく計画していきたいと考えております。

事務局：アンケートについては実施しておりましたが、臨時休館以降は中止しています。感染症対策などをふまえ、また実施できる状況になりましたら再開いたします。

会長：ありがとうございました。リニューアル後の運営方針にもありますが、アンケートは質的・量的な評価には非常に重要な手段です。固定客は危機的なときには我々を支えてくれる存在です。相互コミュニケーションが重要と考えております。

委員：先ほど他の委員からもありましたが、運営と財政の部分について、私なりの見解を述べさせていただきます。博物館関係は全国的にこの30年の中で多く建設されており、特に1980年からの20年で2倍に増え、そのあとの20年で頭打ちになっています。これが何を表しているかというと、経済に比例しているのです。経済に余裕があるときには人々にも余裕があって、このような時期に（博物館の）建設ラッシュが起こります。その後の20年間は日本がデフレ期から脱却できず、加えて消費税増税や新型コロナウイルスの影響などGDPが下がるような経済状況では博物館の運営は非常に難しくなってい

きます。博物館の意義を見直したときに、人材育成や歴史や人の生きる知恵の伝承など、そこは大切にしてもらいたいところです。財政を抜きにして、とはいきませんが、これからも博物館の本来の意義をしっかりと見つめながら精査していかなければならないと考えております。みなさん独自の企画等をたくさんもっていらっしゃるので頑張っていたきたいと思えます。

委員：今までの話は外から見た博物館という観点からのお話だとは思いますが、別件についての質問です。学芸員はとても頑張っているなと思うのですが、学芸員自身が知識を深めるための予算、学会などに参加するための予算は博物館にあるのでしょうか。もしくは自費で参加されているのでしょうか。

事務局：以前は博物館として学会には所属していませんでしたが、幸い去年からは博物館としていくつかの学会に所属しています。以前は学芸員がそれぞれ学会に入り、自費で参加しておりました。しかしながら、所属はしているものの館の業務が忙しく、私はここ7～8年、学会に参加できていないというのが現状です。学芸員は勤務時間外にも余暇を利用してそれぞれ勉強をしています。学芸員として、質を高めるための活動をしていかなければならないと感じています。また、現在は各分野ごとに学会等（学会・協議会等）に入っている状況で、昨年度の天文分野は出張にて学会に参加しています。他の分野についても学会参加の要望があれば、しっかり予算を確保して進めていきたいと考えております。

委員：最近インターネットで博物館のランキングを見ました。あるサイトでは全体の45件のうち3番目くらいかなと思っていたら、24番目と出ていました。これはどのような理由でこうなっているのかはわかりませんが、先ほどの評価のこともありますので、このあたりの原因を考えていくことも大事なのではないかと思います。

館長：貴重な情報をありがとうございます。どのような評価でそうなっているのかは調べてみたいと思えます。足りない部分があれば、それを補っていくようにしたいと思います。

委員：リニューアル後に雨漏りが発生するなどということは、普通では考

えられないと思います。アフターフォローがどうなっているのかが知りたいところです。今一つは駐車場の問題です。県立美術館も同様ですが、熊本城が閉鎖されると公園内の駐車場も閉鎖されてしまいます。博物館をつくる時にも、このアクセスが一番問題でした。また、先ほどの博物館ランキングの低順位については、当初から関わっている人間としては心寒いものがあります。

(※雨漏りについては、リニューアル工事の施工範囲外の箇所から発生したものを。)

委員：城南の塚原資料館をもう少し活用すべきだと思います。非常に場所はいいし、外に自然公園もあるし、新発見の遺物展もすごく良かったと思います。アンケート以上に人（来館者）が入っているのではないかと思ったところです。塚原資料館をもっともっと活用して国史跡と塚原古墳群と一体化して情報発信できれば、お客さんも多くなると思います。質と量（評価）の課題について、行政は量がないとわからないというし、確かに量の方がわかりやすい。質をどう評価するかというと、今のところアンケートなど、心情的なものになるのでは……。そういうのをしっかり取っていかないと、博物館の整理・集約等が行われてしまうのではと危惧します。ぜひ来た人が満足するような、建物の中に入って得られる感動をアピールしていく必要があると思います。博物館の建物は立派ですし、例えば県立美術館の壁の色は「有明海の夕日の色」などの意味があるので、そういったこともアピールするのはどうでしょうか。

事務局：博物館は敷地を利用したイベントがなかなかできにくいと思いますが、塚原歴史民俗資料館は敷地が広いので屋外イベントも可能です。体験教室に力を入れており、7月に「藍染めの教室」を行いましたところ、非常に好評で20名の定員に対して、100名の応募がありました。ほかのイベントにつきましても、市民ニーズに合わせて行えば入館者も増えると考えます。博物館と連携して多くのイベントを行っていききたいと思います。

委員：教育活動では博物館は大きな存在で、子どもたちが博物館に足を運ぶたびにいろいろな興味関心を持ちます。「不思議の種を蒔く」という言葉が先ほどありましたけども、本当に不思議の種をよく蒔いてもらっていると感じます。今の悩みを申し上げますと（新型コロ

ナウイルス感染拡大の) 第二波が来ていて宿泊教室や修学旅行で行う学習をどうしていくのかが喫緊の問題です。宿泊教室については、これまでも金峰山に行く前にプラネタリウムや自然に関する事前学習ができていて、とても充実していました。修学旅行については、県外に行けないときに博物館での学習をお願いできないかと考えていました。長崎で行うような平和学習や放射線教育は熊本市内でできないか、例えば博物館で事前に勉強をして長崎にも行くというようなことができないかを考えていました。YouTube 開設のことは知らなかったので、校長会などでも宣伝して登録者数を増やしていきたいと思います。

会 長：今、小中学校では ZOOM での遠隔授業が行われていますが、博物館では ZOOM を利用されているのでしょうか。

事務局：博物館にもライセンスが付与されております。今後、情報発信や遠隔授業など、ZOOM を利用した事業を行った際には、皆様にご報告させていただきます。

会 長：ありがとうございました。10分ほどオーバーしましたが、これで本日予定していた議事は終了したいと思います。ありがとうございました。

事務局：会長、議事進行ありがとうございました。これにて令和2年度第1回熊本博物館協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

○閉会